

盛岡市における三歳児健診の実態

立木 孝¹⁾ 小田島葉子¹⁾ 村井盛子²⁾

[要約] : 盛岡保健所管轄内6市町村の三歳児健康診査の実態についてまとめ、現在の健診状況と問題点について報告した。

見出し語 : 三歳児健康診査、疾患別受診状況、未受診の理由

1. 目的

盛岡市（正確には盛岡保健所管轄6市町村）において平成2年10月から施行されている、質問票を用いた三歳児聴覚健診の実態を把握することを目的とし、若干の検討を加え報告する。

2. 対象

三歳児健康診査に聴覚検査が導入された平成2年10月から平成6年3月までの3年6か月間の三歳児健診受診児15,088例を対象とした。

岩手県の人口は現在約141万人であり、その中で今回対象とした盛岡保健所管轄6市町村の人口は約41万人で県全体の約30%にあたる。

また平成4年度でみると、県全体の三歳児健診対象児14,612人に対して盛岡保健所管轄6市町村の三歳児健診対象児は4470人とやはり約30%であった。

3. 方法

盛岡市保健所では週に1回50人ずつ、3才3か月児を対象に、図1に示した方法で三歳児聴覚健診を進めている。まず予め健診対象者に対して図2と図3に示した耳に関するアンケート用紙を送付する。今回の検査結果はほとんどが図2のアンケート用紙を使ったものだが、平成5年8月からは図3のアンケート用紙を使用している。保健所で健診を受ける時にこのアンケート用紙を持参してもらい、その回収された結果を見て小児科医が要耳鼻科健診児を決めることになっているが、実際にはアンケートで原則として1項目でも異常があったものを要耳鼻科健診児としている。要耳鼻科健診児には受診票を持って耳鼻科医を受診するように指示し、それを診察した医師はその診察結果を保健所に報告するという、いわゆる精密健診型を採用している。

1) 岩手医大耳鼻科 2) 盛岡市立病院耳鼻科

図1. 盛岡保健所管轄内における三歳児健診の進め方

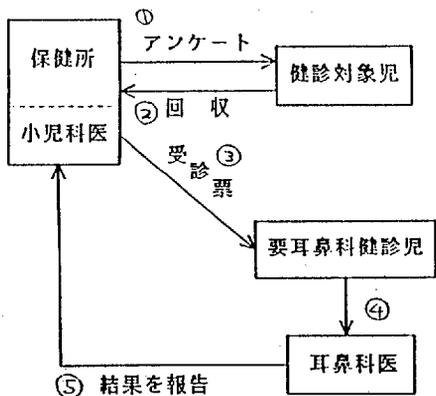


図2. お子さんの耳に関するアンケート

お子さんの名前 ()

お子さんについて当てはまるところを○で囲んで下さい。

1. 家族の中に耳の聞こえの悪い方がいますか。
 いない いる (どなたですか)
2. お母さんはこのお子さんの妊娠中に高い熱の病気とか風しん、おたふくかぜにかかったことがありますか。
 ない ある (どんな病気でしたか)
3. お子さんは麻疹 (はしか)、おたふくかぜにかかったことがありますか。
 ない ある (いつ頃: 病名:)
4. 中耳炎にかかりやすいですか。
 かからない かかりやすい
5. ふだん口をあけて息をしていますか。
 いいえ いる
6. いつも鼻汁を出していたり、鼻づまりがありますか。
 いいえ ある
7. 今までに耳鼻科にかかったことがありますか。
 ない ある (病名:)
8. お子さんは呼んで返事をしないことがありますか。
 ない とときもある いつもある
9. テレビの音をふつうより大きくして聞きたがりますか。
 ふつう 大きな音で聞きたがる
10. 保育所 (園) の保育さんに聞こえが悪いといわれますか。
 いわれたい いわれている
11. 話しことばがおかしい (おきている) ですか。
 ふつう おかしいと心配

4. 結果および考察

1) 三歳児健診受診状況

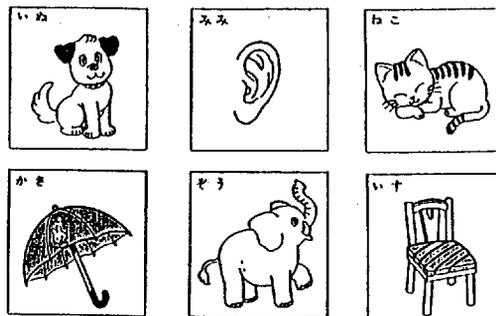
上記の様な方法で行った、平成2年10月から平成6年3月までの過去3年6か月間の三歳児健診受診状況を表1に示した。対象者15,088例中、保健所健診を受診したものは14,404例(95.5%)であった。そのうち要耳鼻科健診児と判定されたものは、390例(2.7%)であり、実際に耳鼻科健診を受けたものは要健診児390例中266例(68.2%)と、若干受診率が低い結果となった。

図3. お子さんの耳に関するアンケート

(平成5年8月より改正)

1. 聴覚自己検査について伺います。
 ア. 聴覚自己検査をしましたか。
 はい いいえ
 イ. 検査の方法を理解して検査が出来ましたか。
 はい いいえ
 ウ. 普通の声 (会話する時の声) で話した時、絵シートの表示した絵を全て正しく指差せましたか。
 はい いいえ
 エ. ささやき声で話した時、絵シートの表示した絵を全て正しく指差せましたか。
 はい いいえ
2. お子さんについて当てはまるところを○で囲んで下さい。
 1. 家族・近い親戚の方に、小さい時から耳の聞こえの悪い方がいますか。
 はい いいえ
 2. 中耳炎に何回かかかったことがありますか。
 はい いいえ
 3. 普段鼻づまり、鼻汁をだす、口で息をしている、のどれかがありますか。
 はい いいえ
 4. 呼んで返事をしなかったり、聞き逃したり、テレビの音を大きくするなど、聞こえが悪いと思う時がありますか。
 はい いいえ
 5. 幼稚園の先生や保育さんなど、お子さんに接する人から聞こえが悪いと言われますか。
 はい いいえ
 6. 話し言葉について、遅れている、発音がおかしいなど、気になる点がありますか。
 はい いいえ
 7. こちらの言う言葉が、動作など加えないとお子さんに通じませんか。
 はい いいえ

絵シート



2) 未受診の理由

次に未受診の方々に連絡をとりその理由をみると、表2に示したように今後受診予定と回答したものが43例だが、あまり心配していない19例、不明という例が60例と、全体の約半数を占めており、子供の聞こえに対する関心がまだまだ低いのではないかという印象を持った。この点は今後課題となると思われるが、平成5年8月から家庭内での聴覚自己検査が導入されたことによって、家族の子供の聴覚に対する関心が高まり受診率が向上してくるのではないかと期待が持たれる。

表1. 三歳児健診の受診状況

例数	年度				計
	H 2	H 3	H 4	H 5	
対象者数	1329	4757	4470	4532	15,088(100.0)
受診者数	1263	4568	4248	4325	14,404 (95.5)
要耳鼻科健診者	50	138	99	103	390 (2.7)
受診者数	35	86	64	81	266 (68.2)
未受診者数	15	52	35	22	124 (31.8)

() %

表2. 耳鼻科健診未受診の理由

項目	年度				計
	H 2	H 3	H 4	H 5	
心配していない	4	8	6	1	19
今後受診予定	1	32	6	4	43
不明	10	10	23	17	60
計	15	50	35	22	122

3) 保健所統計による疾患別分類

要耳鼻科健診児の中で実際に耳鼻科を受診し保健所に回答があったものについて、その保健所統計による疾患別分類を耳、鼻咽喉頭、その他と部位別にわけて、表3に示した。

耳疾患は全体の37.7%を占めており、その中で滲出性中耳炎が最も多く約3割を占めていたが、これは全三歳児健診受診者14,404人の1%にあたる割合である。また感音難聴は2例検出されている。聴覚障害を有する子供に対しては、滲出性中耳炎の症例については引き続き耳鼻科医で治療を行っており、また感音難聴の2例については、1例は両側高度難聴を有するダウン症候群の例であり、他の1例は両側60dB程度の中等度難聴の例であったが、いずれも補聴器を装用し、言語訓練が行われている。

表3. 三歳児健診受診者の疾患別分類

部位	疾患	件数 (件)	頻度 (%)
耳 (37.7%)	滲出性中耳炎 (耳管狭窄症含む)	88	33.1
	急性中耳炎	10	3.8
	感音難聴	2	0.8
鼻咽喉頭 (21.4%)	慢性副鼻腔炎	35	13.2
	慢性扁桃炎	15	5.6
	アレルギー性鼻炎	7	2.6
その他 (14.3%)	単純性言語発達遅滞	26	9.8
	その他	12	4.5
	正 常	106	39.8

* 複数回答あり (対266例)

5. まとめ

1) 保健所健診受診率は95.5%と高率であったが、耳鼻科健診受診率は要耳鼻科健診児に対して68.2%と若干低率であった。未受診の理由をみると、子供の聞こえに対する関心がまだまだ低いのではないかという印象をうけた。

2) 保健所統計による疾患別受診率は耳疾患が37.7%であり、その中で滲出性中耳炎が3割を占めた。また感音難聴も2件検出されており、2件とも現在補聴器装用にて言語訓練が行われている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



[要約]:盛岡保健所管轄内 6 市町村の三歳児健康診査の実態についてまとめ、現在の健診状況と問題点について報告した。